

2025

第36回

東海糖尿病治療研究会 糖尿病患者教育担当者セミナー

## Sustainable Diabetes Goals

～持続可能な糖尿病治療を目指して～

会期：令和7年9月7日（日）12：50～16：10

会場：愛知県産業労働センター ウィンクあいち大ホール

主幹：西知多医療厚生組合 公立西知多総合病院

# ご挨拶

このたび、第36回東海糖尿病治療研究会・糖尿病患者教育担当者セミナーを公立西知多総合病院が幹事施設として開催させていただき運びとなりました。

ご存じの通り糖尿病治療の目標は合併症の発症を予防することであり、そのためには長期に血糖値を安定させる必要があります。よって糖尿病治療は、生涯にわたり続くものであり、治療の継続が要と考えられます。

今回は、Sustainable Diabetes Goals (SDGs)～継続可能な糖尿病治療を目指して～をテーマとして継続可能との視点から糖尿病治療を考えていきたいと思っております。

一言に継続可能と申しましても、いろいろな視点があります。患者さんが糖尿病治療を継続することが第一ですが、それを支える我々医療スタッフ個人、医療機関の糖尿病チームもが高いレベルで継続していく必要があります。さらに言えば昨今の社会情勢から医療を取り巻く環境は厳しさを増しており、医院、病院の経営を持続させることも容易ではありません。このような様々な視点から討議できる場を提供できればと考えています。

特別講演には日本赤十字北海道看護大学学長・教授である安酸史子先生をお迎えし、深いご経験からの糖尿病患者教育理論に基づいたご講演をいただきます。

一般演題は、時間が限られるため今回は限られた施設からの発表とさせていただきます。

最後に、シンポジウムを開催し、多職種の様々な視点から糖尿病治療を継続可能とするためのアイデアを話し合いたいと思います。

日程は例年通りの9月第一日曜日としましたが、日本糖尿病学会中部地方会と日程が重なってしまい、午後からの縮小開催といたしました。会場は非常に近いので、一度に双方の参加も十分に可能です。糖尿病療養指導士の単位認定も取得できる見込みであり、実りのある会にするようスタッフ一同努力をして参ります。皆様の参加をお待ちしております。

第36回 東海糖尿病治療研究会 糖尿病患者教育担当者セミナー 代表 加藤 二郎

(公立西知多総合病院 糖尿病・内分泌内科 主任部長)

# セミナー参加者へのご案内

## 1) 参加受付

受付は、9月7日（日） 12:20より、第1会場（大ホール）前のホワイエにて行います。

### ①事前参加登録（参加費お振込み）済みの方

ご苗字（頭文字）毎に受付窓口をご用意しています。受付名簿にて確認後「参加証兼領収証」をお渡しします。施設名・参加者名記入頂き、ケースに入れ名札として着用ください。

### ②当日参加登録の方

『当日参加受付』に於いて、参加登録と参加費（3,000円）のお支払いをお願いします。

## 2) 糖尿病療養指導士研修単位登録

本会では糖尿病療養指導士「認定更新のための研修会」として、

- ・日本糖尿病療養指導士「認定更新のための研修会」 認定単位：1単位（第2群）
- ・愛知糖尿病療養指導士「認定更新のための研修会」 認定単位：2単位

の参加証(単位証明証) をセミナー終了時にホワイエにてお渡しします。研究会当日受付にて「参加証引換券」をお渡しいたします。引換券に氏名、認定番号等の必要事項を記載いただき、また引換券記載のQRコードからリンク先のフォーム入力をお願いします。本会に認定番号の登録なき場合は、認定機構からの単位認定が認められない場合があります。また、後日の配布は行いませんのでご注意ください。

## 3) 特別講演講師・座長、一般講演司会・コメンテーターをされる方へ

お越しになりましたら、「当日参加・演者受付」に必ずお立ち寄りください。

## 4) 分科会発表者の方へ

発表は原則として講演7分、討論3分です。

発表データは事前に提出をお願いします。（ご自身のノートPCの持ち込みはご遠慮ください。）お預かりしているデータは本会終了後に消去します。また、発表はPowerPoint2021です。このバージョン以外で作成された場合には不具合が生じることがありますので、PowerPoint2021の形式でデータをご用意ください。

第36回 東海糖尿病治療研究会 糖尿病患者教育担当者セミナー  
Sustainable Diabetes Goals ～持続可能な糖尿病治療を目指して～

プログラム

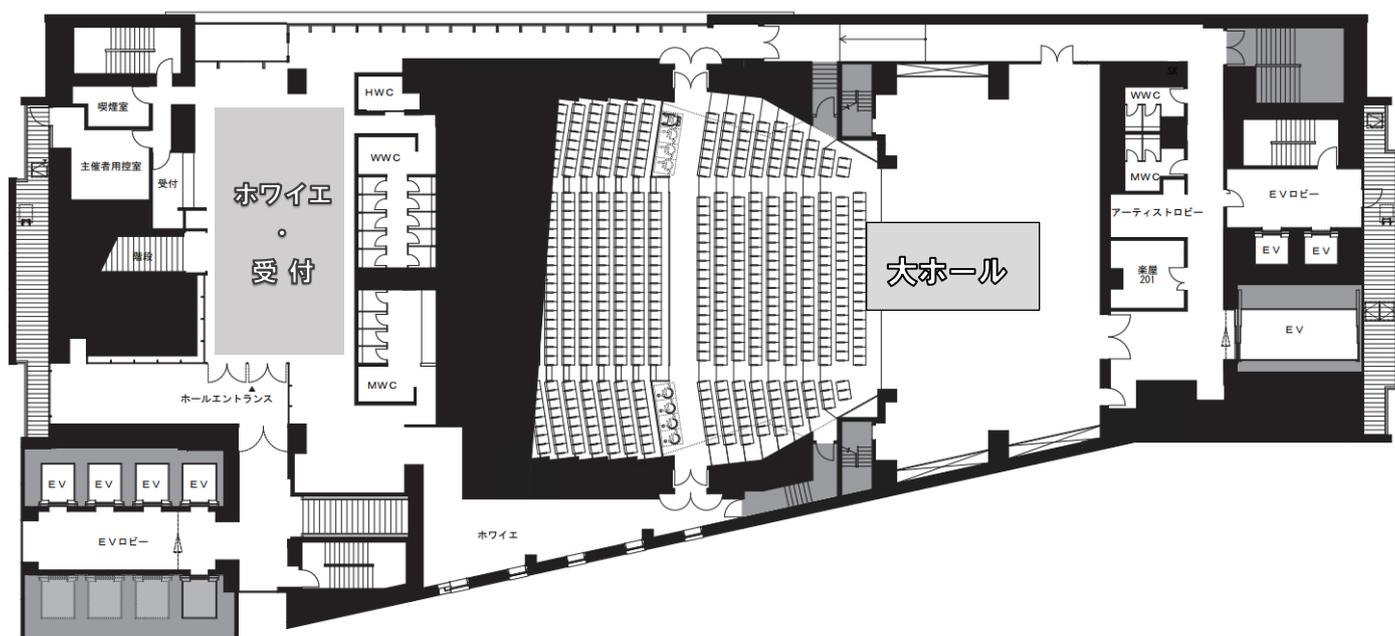
時間	内容
12:20	受付
12:50	開会式
13:00～ 14:00 (60分)	<p>特別講演</p> <p>座長：公立西知多総合病院 糖尿病・内分泌内科 主任部長 加藤 二郎</p> <p>糖尿病患者へのセルフマネジメント支援について</p> <p>日本赤十字北海道看護大学 学長・教授 安酸 史子</p>
14:00～ 14:30 (30分)	<p>一般演題</p> <p>座長：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 看護部 高浜 由加里</p> <p>コメンテーター：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 内分泌内科 栗井 智之</p> <p>当院の高齢者糖尿病患者における内服剤数と服薬アドヒアランスについて</p> <p>名鉄病院 薬剤師 佐子 詠美</p> <p>多職種チームで取り組む糖尿病教育入院 - アンケート調査からみえてきたもの -</p> <p>公立西知多総合病院 看護師 松井 千穂</p> <p>糖尿病内科での透析予防指導の課題とCKD外来での糖尿病患者への透析予防指導の現状</p> <p>国立病院機構名古屋医療センター 看護師 坂田 瞳</p>

時間	内容
14:30～ 16:10 (90分)	<p style="text-align: center;"><b>シンポジウム</b></p> <p style="text-align: center;">座長：公立西知多総合病院 糖尿病・内分泌内科 主任部長 加藤 二郎</p> <p style="text-align: center;"><b>Sustainable Diabetes Goals</b>  ～持続可能な糖尿病治療を目指して～</p> <p>講義・ディスカッション</p> <p>14:30～14:54</p> <p>① チーム医療 × 自立支援 ―通い続けたいくなる糖尿病クリニックの実践</p> <p style="text-align: right;">〈医師〉 糖尿病・甲状腺 加木屋たけうち内科 院長 竹内 誠治</p> <p>14:54～15:18</p> <p>② とともに育ち、ともに支える持続可能な糖尿病治療チームづくり～学び続ける力と伝える力を次世代へ～</p> <p style="text-align: right;">〈看護師〉 早川クリニック 糖尿病看護認定看護師 土川 睦子</p> <p>15:18～15:42</p> <p>③ 糖尿病地域医療を支える上で、「持続可能な糖尿病治療」を実践するために取り組んでいること</p> <p style="text-align: right;">〈薬剤師〉 あかり薬局 小牧店 管理薬剤師 池田 花梨</p> <p>15:42～15:50</p> <p style="text-align: center;">休憩</p> <p>15:50～16:10</p> <p style="text-align: center;">総合討論</p>
	16:10

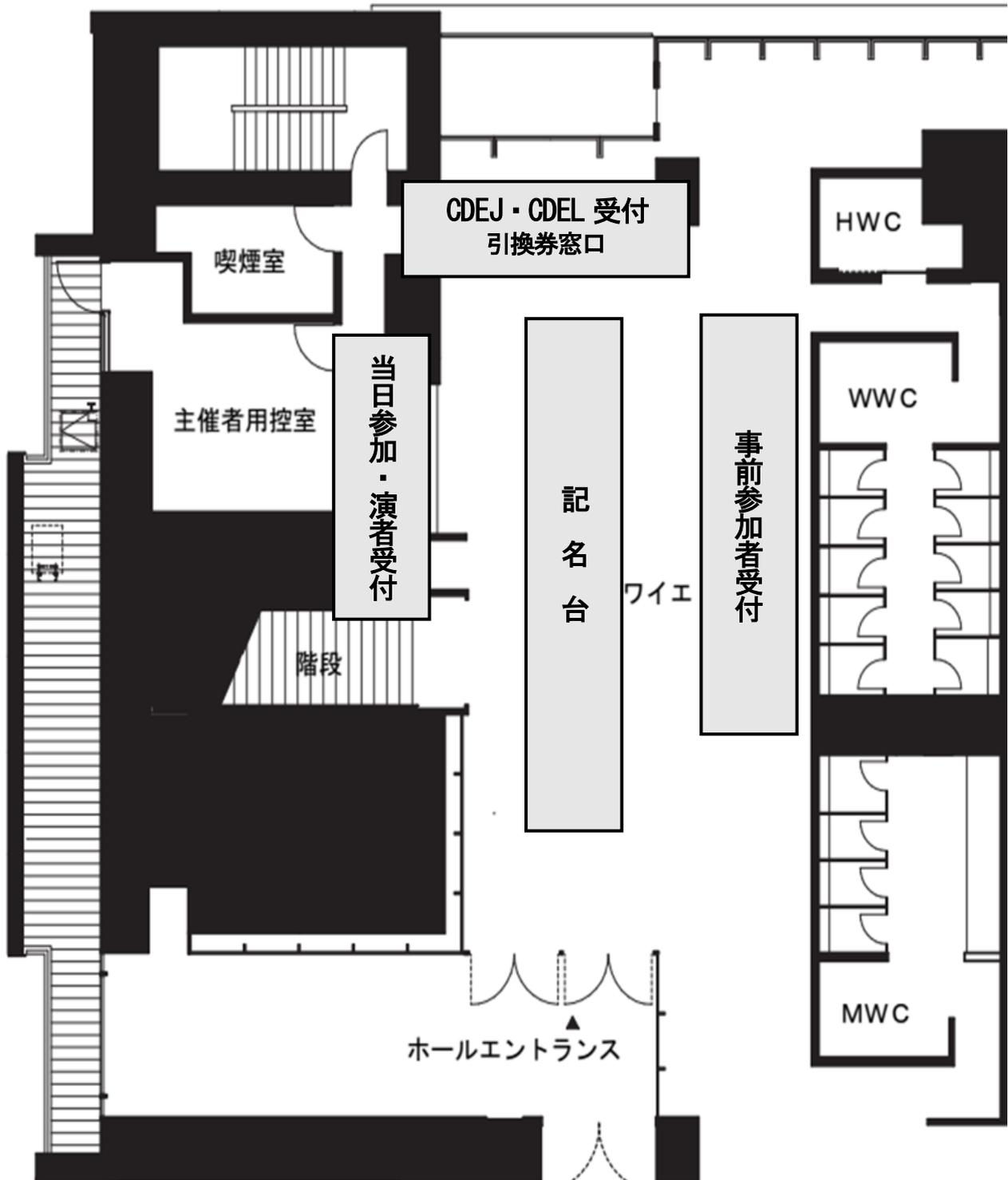
# 会場のご案内

## 受付・会場（大ホール）

2F



# 受付拡大図



# 交通のご案内



**会場：愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」**

住所：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

**電車(JR・地下鉄・名鉄・近鉄)をご利用の場合**

**名古屋駅 地上からのアクセス**

JR 名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面へ徒歩5分

ユニモール地下街 5番出口から徒歩2分

**名古屋駅 地下からのアクセス** (7:30から通行可能。雨に濡れずにアクセスできます)

名駅地下街サンロードからミッドランドスクエア、マルケイ観光ビル、名古屋クロスコートタワーを經由 徒歩8分

**お車・駐車場をご利用の場合**

名古屋高速都心環状線「錦橋」出口より約6分

駐車場へは当館、西側（ミッドランドスクエア側）よりご入場ください。

収容台数：123台 料金：30分（7:00～23:00）250円、入庫後24時間最大1,880円

第36回 東海糖尿病治療研究会  
糖尿病患者教育担当者セミナー

# Sustainable Diabetes Goals

～持続可能な糖尿病治療を目指して～

抄 録

特別講演

一般演題

シンポジウム

**【特別講演】**

**糖尿病患者への  
セルフマネジメント支援について**

**日本赤十字北海道看護大学 学長・教授**

**安酸 史子 先生**

座長：公立西知多総合病院 糖尿病・内分泌内科 主任部長

加藤 二郎

特別講演

## 糖尿病患者へのセルフマネジメント支援について

日本赤十字北海道看護大学 学長・教授

安酸 史子

本講演では、高齢社会へと突入している現代において、「治す医療」から「支える医療」への転換が求められる中、糖尿病患者へのセルフマネジメント支援の意義と実践について概説します。慢性疾患である糖尿病においては、患者自身が主体的に健康を管理し、合併症の予防や生活の質（QOL）の向上を目指す「セルフマネジメント能力」の強化が不可欠です。

セルフマネジメント支援とは、患者が自覚症状と上手に付き合い、日々のデータとしっかり向き合い、社会生活やストレスとも適切に関わることを支援する取り組みです。このためには、医療者が患者の話をよく聴いて、患者の困りごとを一緒に解決していく治療同盟の関係を目指したいものです。こうしたサポートを通じて、患者は体調や生活上の課題を客観的に捉え、自己管理能力を高めることが可能となります。

支援の基本となるのは、個々の背景や価値観に合わせた患者教育です。疾患や治療内容、食事・運動・薬物療法の知識を習得し、生活に活かせるよう、医療者は共感的な対話や動機づけ面接法を活用します。患者自身が目標を設定し、小さな成功体験を積み重ねることで、自己効力感が醸成されます。

さらに、ICTの活用により、血糖値や運動・食事内容の記録や管理、遠隔モニタリングが容易になり、自己管理能力の向上に役立っています。多職種連携や家族・地域との協力による包括的支援も重要です。

高齢社会の今こそ、セルフマネジメント能力向上を通じて患者が自分らしい生活を送れる「支える医療」への変革が求められています。本講演では実践事例とともに、今後の支援の課題と展望について考察します。

## 特別講演 講師御略歴

### 日本赤十字北海道看護大学 学長・教授 安酸 史子

#### 職歴等

- ・自衛隊中央病院高等看護学院卒業
  - ・3年間外科系で看護師経験をしたのち、千葉大学看護学部で1年から入学、修士課程では看護教育学を専攻
  - ・修士修了後に順天堂病院浦安分院で内科系の病棟で3年間勤務
- 平成2年 東京女子医科大学看護短期大学で 成人看護学助手として勤務
- 平成5年 岡山県立大学保健福祉学部看護学科助教授に就任
- 平成9年 東京大学で博士号（保健学）取得（論文博士）
- 平成10年 岡山県立大学保健福祉学部看護学科教授となる
- 平成12年 岡山大学医学部保健学科看護学専攻教授（地域看護学講座）
- 平成15年 福岡県立大学看護学部の初代学部長就任  
研究科長、教員兼務理事、ヘルスプロモーション実践研究センター長、  
看護実践教育センター長を歴任、糖尿病看護認定看護師教育課程の立ち上げ等行う
- 平成25年 防衛医科大学医学教育部看護学科設立に伴い、準備室に1年勤務
- 平成26年 防衛医科大学医学教育部看護学科長に就任 完成年度まで務める
- 平成30年 関西医科大学看護学部教授 基盤看護分野看護学教育領域教授
- 令和3年 日本赤十字北海道看護大学学長就任、現在に至る

#### 現在

国際ケアリング学会理事長、日本看護教育学学会副理事長、日本教師学学会理事、日本保健医療行動科学会理事

#### 専門 看護教育学

「経験型実習教育」の提唱者

患者教育においては、「セルフマネジメント教育」を提唱し、患者とのパートナーシップを結び、患者がセルフマネジメントできるように支援する方法論について検討を続けている。

# 一般演題

座長

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

看護部 高浜由加里

コメンテーター

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

内分泌内科 栗井智之

---

名鉄病院

薬剤師

佐子 詠美

公立西知多総合病院

看護師

松井 千穂

国立病院機構名古屋医療センター

看護師

坂田 瞳

## 当院の高齢者糖尿病患者における内服剤数と服薬アドヒアランスについて

病院：名鉄病院

発表者：佐子 詠美（薬剤師）

共同演者：佐子詠美<sup>1</sup>、川口実希<sup>1</sup>、鎌倉里恵<sup>1</sup>、鈴木のぞみ<sup>1</sup>、武藤達也<sup>1</sup>、藤田怜一郎<sup>2</sup>、吉田薫<sup>2</sup>、森田彩<sup>2</sup>、井上沙織<sup>2</sup>、神谷高志<sup>2</sup>、安田寛子<sup>2</sup>

名鉄病院 薬剤部<sup>1</sup>、内分泌・代謝内科<sup>2</sup>

### 【背景】

高齢者では加齢とともに合併疾患が増加し、多剤併用となる傾向がある。内服薬を5剤以上服用している65歳以上の患者では、服薬アドヒアランス(以下、AH)が低下するという報告がある。糖尿病治療薬のAH低下は、合併症増加に関連するとされている。当院においても、高齢患者の割合が増加している為、AH改善は、良好な血糖管理を行い合併症を予防する上で重要な課題である。近年、複数の糖尿病薬を1錠にまとめた配合剤が登場しており、服用剤数を減らす事でAH改善が期待される。

### 【目的】

当院でトラゼンタ®錠およびジャディアンス®錠を併用している患者(併用群)と、両剤の配合剤であるトラディアンス®配合錠を服用している患者(合剤群)について、AH等の現状を調査・比較し、配合剤の有用性を検討した。

### 【対象・方法】

対象は、2019年10月1日～2020年9月30日に当院内分泌・代謝内科外来を受診した2型糖尿病患者。対象者を、併用群および合剤群に分類し、以下の項目を調査した。残薬調整の有無、内服薬剤数(常用薬)、年齢(歳)、性別、eGFR(mL/dL)、HbA1c(%)。データは期間内の最新値を使用し、検査値が不明な症例は除外。統計学的検討はMann-WhitneyのU検定を用い、有意水準は5%以下とした。

### 【結果】

調査対象は全51名であり、併用群が23名、合剤群が28名であった。全体の平均服用薬剤数は $6.6 \pm 2.7$ 剤であり、併用群と合剤群の間では服用薬剤数および糖尿病薬剤数に有意差が認められた。AHに関しては、併用群では良好15名、不良8名、合剤群では良好26名、不良2名であり、合剤群の方が良好なAHを示す割合が高い傾向にあった。また、AH良好群と不良群でのHbA1c値はそれぞれ $7.2 \pm 0.8\%$ 、 $8.3 \pm 0.4\%$ であり、有意差を認めた( $p = 0.009$ )。さらに、高齢者におけるeGFRにも有意差が認められた。

### 【考察】

配合剤使用により、糖尿病薬を含めた服薬剤数の減少が可能であり、結果としてAHの改善に寄与する可能性が示唆された。また、AHが良好な群ではHbA1cも良好に管理されており、糖尿病治療におけるAHの重要性が再確認された。今後、配合剤の適応を患者背景や腎機能とともに評価し、薬剤師が積極的に介入することで、継続的なより良い服薬支援が可能になると考えられる。

## 多職種チームで取り組む糖尿病教育入院 アンケート調査からみえてきたもの

病院：公立西知多総合病院

発表者：松井千穂（看護師）

共同演者：伊藤幸輝<sup>1</sup>、加藤滋宏<sup>1</sup>、鬼頭恵美<sup>2</sup>、深谷えみ子<sup>2</sup>、近藤友紀<sup>3</sup>、坂美津江<sup>4</sup>、松下有里菜<sup>5</sup>、荒岡弦暉<sup>5</sup>、加藤綾<sup>6</sup>、宮崎真由香<sup>6</sup>、鈴木亮大<sup>7</sup>、高木佐苗<sup>7</sup>、泉田久和<sup>7</sup>、加藤二郎<sup>7</sup>

公立西知多総合病院 薬剤師<sup>1</sup>、臨床検査技師<sup>2</sup>、保健師<sup>3</sup>、看護師<sup>4</sup>、管理栄養士<sup>5</sup>、理学療法士<sup>6</sup>、糖尿病・内分泌内科<sup>7</sup>

### 【背景】

近年食生活をはじめとする生活様式の変化により糖尿病患者が急増している。当院は年間約 110 名の患者が糖尿病教育入院している。当院の糖尿病教育入院の目的は、①病気を正しく理解する。②食事療法を自己管理する方法を学ぶ。③運動療法を正しく取り入れる方法を学ぶ。④糖尿病合併症の進み具合を確認する。⑤薬の正しい知識と自己管理方法を学ぶ。⑥日常生活の過ごし方について学ぶ。⑦家族がどのように協力していくかを学ぶ。⑧糖尿病以外の生活習慣病の評価・管理を行う。⑨成功体験を得る。と掲げ、多職種の専門性を活かし、それぞれがその分野の講義を実施している。

糖尿病教育は、患者が糖尿病と向き合いながらその人らしい生活を送ること、且つ合併症を予防するための行動が取れるよう支援することが重要である。

### 【目的】

多職種の教育内容が患者のニーズに合っているか、今後の生活に活かすことができる内容となっているか、糖尿病教育の現状を知り、講義別の課題を抽出し、今後の糖尿病教育の効果を上げる事を目的とする。

### 【方法】

2025 年 3 月～7 月に以下の①から⑧の講義を対象として、当院糖尿病教育入院患者に、講義後にアンケート調査を実施した。アンケートは講義時間や内容などを問う内容に合わせて、講義内容が、これからの治療や生活に活かすことができるかを問う。各講義毎にアンケート結果を集計し、今後の課題を見出す。

①糖尿病とは②糖尿病合併症について③フットケア講義④運動療法について⑤検査・自己血糖測定について⑥食事療法について⑦薬物療法について⑧カンバセーションマップ

### 【結果】

アンケート結果より、講義時間については 94%が適当と回答、資料・スライドの見やすさについては 79%が見やすいと回答、講義内容については 92%が分かりやすいと回答、これからの治療や生活に活かすことができるかについては 95%が活かすことができるとの回答であった。

### 【結論】

若年者と高齢者、合併症が軽症と重症などで理解度や関心のある内容が異なる。パーソナライズされた講義を実施していくことが患者のニーズに応えることとなる。そのため、各担当者がアンケート調査から得た現状を分析し、改善点を検討し修正することで、講義内容の充実を図ることが必要である。

## 糖尿病内科での透析予防指導の課題とCKD外来での糖尿病患者への透析予防指導の現状

病院：国立病院機構名古屋医療センター

発表者：坂田 瞳（看護師）

共同演者：山家 由子（医師）

### 【目的】

当院では糖尿病腎症を有する患者は多く存在する。早期から糖尿病内科外来で透析予防指導を実践したいが、患者は希望されないことが問題に挙がる。また糖尿病腎症の進行による透析予防の必要性や腎症4期へ移行した患者の透析準備を加味し2019年にCKD外来を立ち上げ、慢性腎臓病を有する糖尿病患者の透析予防指導を開始した。

### 【方法】

2023年4月～2024年3月の期間中、糖尿病腎症で透析予防指導を必要とする患者へ透析予防指導をおこない、糖尿病内科外来とCKD外来での糖尿病腎症患者における透析予防指導件数と糖尿病腎症のステージ件数をDWHで集計し比較検討した。【倫理的配慮】対象者に個人が特定されないように配慮すること、本研究会で報告することを口頭で説明し同意を得た。

### 【実践と結果】

2023年4月から2024年3月の1年間、糖尿病内科外来は日本糖尿病療養指導士の看護師が、CKD外来は糖尿病看護認定看護師と腎臓病療養指導士の看護師が透析予防指導を実施し、指導内容を看護記録（糖尿病内科外来）やテンプレート（CKD外来）に記載する決まりとした。また医療システムエンジニアへ透析予防指導料算定患者数（糖尿病内科外来）とCKD外来予約数のデータをDWHに取り込んでもらうよう依頼した。結果として、糖尿病内科外来で透析予防指導した件数は13件、CKD外来で糖尿病腎症を有する患者の透析予防指導した件数は161件だった。糖尿病内科外来で透析予防指導した患者の糖尿病腎症のステージは2期0件・3期0件・4期13件であり、CKD外来では2期0件・3期2件・4期159件だった。両者における2回目以降の透析予防指導の継続の割合は、糖尿病内科外来は23.1%、CKD外来は59.6%だった。

### 【考察】

透析予防指導において、糖尿病内科外来では腎症2期から指導する件数は少なく、腎症が進行した4期で実施される傾向にあり、早期から糖尿病腎症における療養指導が実施できる場として、症状のない時期から介入していく方策が必要である。患者が透析予防指導を断る理由として「時間がない」が多く挙げられたが、患者が透析予防指導を受ける必要性を理解し、かつ医療者は患者が指導を受ける時間の調整ができるよう日々の外来受診時における関わりや受診勧誘が必要だと考える。また、CKD外来は尿蛋白陽性やeGFR60ml/m/1.73m<sup>2</sup>未満を基準とするため、腎症4期から指導するケースが多かったが、継続した指導が実施されているため糖尿病患者においても透析予防指導が定着されつつある。理由として、CKD外来では、糖尿病腎症とそれ以外の腎疾患を併発する患者が通院されるケースが多く、透析予防指導がしやすい環境にあったと考える。さらに2024年6月から慢性腎臓病透析予防管理料が算定可能となったため、現在は指導料の算定も可能となっている。

シンポジウム

# Sustainable Diabetes Goals

～持続可能な糖尿病治療を目指して～

---

座 長

公立西知多総合病院

糖尿病・内分泌内科主任部長 加藤二郎

---

## 講師

糖尿病・甲状腺 加木屋たけうち内科 院長 竹内 誠治

早川クリニック 糖尿病看護認定看護師 土川 睦子

あかり薬局 小牧店 管理薬剤師 池田 花梨

## 講演・ディスカッション

〈医師〉病院

- ・チーム医療 × 自立支援 一途い続けたい糖尿病クリニックの実践

〈看護師〉クリニック

- ・ともに育ち、ともに支える持続可能な糖尿病治療チームづくり

～学び続ける力と伝える力を次世代へ～

〈薬剤師〉調剤薬局

- ・糖尿病地域医療を支える上で、「持続可能な糖尿病治療」を実践するために取り組んでいること

## 糖尿病患者教育担当者セミナーのあゆみ

回	開催年	幹事施設	メインテーマ
第1回	1987	国立名古屋病院	よりよいチーム医療をめざして
第2回	1988	名古屋第二赤十字病院	セルフコントロールをどう実現してもらうか
第3回	1989	安城更生病院	糖尿病患者さんにわかってもらうためには
第4回	1990	知多市民病院	糖尿病患者教育の実際とその効果について
第5回	1991	江南昭和病院	ハンディキャップを持った人々へのアプローチ
第6回	1992	国立豊橋病院	QUALITY OF LIFEをふまえて
第7回	1993	中京病院	病院から社会へ
第8回	1994	西尾市民病院	よりよき教育と自己管理をめざして
第9回	1995	名古屋第一赤十字病院	知識から実践へ—患者中心の教育をめざして
第10回	1996	新城市民病院	高齢化社会における糖尿病患者教育のありかた
第11回	1997	名古屋掖済会病院	糖尿病患者教育の原点に立ち返って 食事療法・運動療法を見直そう
第12回	1998	土岐市立総合病院	患者心理を考えて
第13回	1999	総合保健センター あいち健康プラザ	糖尿病予防と治療のネットワーク
第14回	2000	国立療養所中部病院	高齢社会・明日の役割を考える ～糖尿病患者をとりまく多様化への対応～
第15回	2001	岡崎市民病院	継続性のある自己管理を目指して ～治療の継続と家庭生活の維持に向けて～
第16回	2002	名鉄病院	オーダーメイドの糖尿病教育
第17回	2003	岐阜社会保険病院	セルフケア支援のための知識と経験の共有
第18回	2004	トヨタ記念病院	現状の糖尿病教育・治療管理システムに満足していますか？ ～地域医療連携に向けて～
第19回	2005	大同病院	経済事情を考えた糖尿病治療の現状と限界 ～安心して治療を続けるために～
第20回	2006	名古屋医療センター	患者さんの求める糖尿病治療とは

第21回	2007	名古屋大学 医学部附属病院	充実した糖尿病生活を送るために
第22回	2008	安城更生病院	変わりゆく糖尿病医療のなかで
第23回	2009	大垣市民病院	ゆく秋ぞ 患者に教え 教えられ
第24回	2010	名古屋第二赤十字病院	きれめのない糖尿病患者教育と治療をめざして
第25回	2011	海南病院	これならできる糖尿病治療 ～治療へのモチベーションとエンパワーメント～
第26回	2012	中京病院	次世代の糖尿病治療のあり方 ～四半世紀を振り返って～
第27回	2013	一宮市立市民病院	少子高齢化時代の糖尿病ケア
第28回	2014	名古屋掖済会病院	合併症予防をめざした糖尿病指導
第29回	2015	岡崎市民病院	アンチエイジングを踏まえた糖尿病療養支援
第30回	2016	名古屋第一赤十字病院	昨日より今日、今日よりも明日のために ～未来へつなぐ最新糖尿病治療～
第31回	2017	公立陶生病院	伝わるチーム医療 ～求められる糖尿病治療をめざして～
第32回	2018	豊橋市民病院	高齢糖尿病患者を地域で支えるためには
第33回	2019	トヨタ記念病院	患者と共に考える糖尿病療養支援
第34回	2023	江南厚生病院	今こそコミュニケーションを
第35回	2024	名鉄病院	令和時代における糖尿病療養指導
第36回	2025	公立西知多総合病院	<b>Sustainable Diabetes Goals</b> ～持続可能な糖尿病治療を目指して～

第36回

東海糖尿病治療研究会 糖尿病患者教育担当者セミナー

## 『Sustainable Diabetes Goals

～持続可能な糖尿病治療を目指して～』

発行者： 第36回東海糖尿病治療研究会

糖尿病対策チーム会 公立西知多総合病院内

〒477-8522 愛知県東海市中ノ池三丁目1番地の1

TEL：0562-33-5500

院長： 吉原 基

代表： 加藤 二郎

事務局長： 森田 美和

実行委員長： 加藤 滋宏